

令和3年度
岩内あけぼの学園

事業報告書

社会福祉法人あけぼの福社会

目 次

I. 利用者の状況	P3
1. 入退所状況	P3
①岩内あけぼの学園(施設入所支援)	P3
②岩内あけぼの学園(通所・生活介護)	P3
2. 居室と担当職員の状況	P4
II. 職員の状況	P5
III. 見学・実習生の受入状況	P5
IV. 研修の状況	P6
1. 職場外研修の状況	P6
2. 職場内研修の状況	P7
V. 年間行事の実施状況	P7
VI. 生活支援の状況	P8
1. 各種スポーツ大会等の状況	P8
2. 社会生活活動の実施状況	P8
3. サークルとコンサート鑑賞の実施状況	P8
4. 避難訓練の実施状況	P8
5. 建物や設備の整備について	P8
6. 生活棟(別棟)えみしあの運用について	P8
7. 通院や入院への対応について	P9
8. 新型コロナウイルス感染症への対応について	P9
9. リハビリ支援について	P9
10. 行事の実施について	P9
11. 学校との連携と将来的な人材確保について	P9～10
12. 広域避難訓練の実施について	P10
13. グループホーム ラフォーレの支援について	P10
14. 在宅(通所)利用者の支援について	P10
15. 記録管理システムについて	P10
16. 障がい者虐待防止法について	P10
17. 利用料収入と支援スタッフの確保について	P10
VII. 食事提供業務の状況	P11
VIII. 健康管理の実施状況	P11
1. 日常生活における予防及び衛生	P11
2. 住環境の清潔と感染性疾患の予防	P11
3. 日常の健康管理	P11～12
4. 健康診断の実施と各種検診の受診	P12
5. 感染症罹患者への対応について	P12
IX. 苦情解決について	P12
X. 日中活動支援の状況	P13
1. 活動グループの状況	P13
2. 各活動グループの活動状況	P13
① 生活介護Ⅰグループ	P13～14
② 生活介護Ⅱグループ	P14
③ 生活介護Ⅲグループ	P15
④ 生活介護Ⅳグループ	P15
⑤ 生活介護Ⅴグループ	P16

I. 利用者の状況について

1. 入退所状況

①. 岩内あけぼの学園、施設入所支援利用者動向

月	現員	施設入所支援状況		異動の状況
		入所	退所	
4	50		1	TYさん(退所)
5	49		1	NTさん(退所)
6	49			
7	49			
8	50	1		NKさん(入所)
9	50			
10	50			
11	50			
12	50			
1	50			
2	50			
3	50			
合計	597	1	2	

②. 岩内あけぼの学園、(通所)生活介護利用者動向

月	現員	通所利用状況		異動の状況
		通所	退所	
4	10	1		NTさん(通所)
5	10			
6	10			
7	10			
8	10			
9	10			
10	11	1		SKさん(通所)
11	11			
12	11			
1	11			
2	11			
3	11		1	TKさん 3月31日付(退所)
合計	125	2	1	

2. 居室と担当職員の状況(令和4年3月31日現在)

① 施設入所支援サービス利用者

利用者名 (男性)	担当職員		利用者名 (女性)	担当職員	
	担当	副担当		担当	副担当
ASさん	OK	MR	NHさん	SM	SA
TTさん	HS	KM	TKさん	SM	KT
OSさん	HS	MR	EHさん	FM	NK
YTさん	MT	ZK	KSさん	FM	FI
KKさん	MT	NS	NKさん	FM	NN
IGさん	TD	ZK	OTさん	MA	KT
KYさん	TD	UK	FMさん	MA	KT
UKさん	KM	UK	IHさん	MA	TS
IJさん	KM	MT	HEさん	NK	NN
MMさん	MY	ZK	SMさん	NK	NN
NRさん	MY	NS	IRさん	NK	IT
TTさん	MY	TD	HHさん	NN	NK
MMさん	NS	MY	YTさん	NN	FM
MSさん	NS	TD	ATさん	SA	MA
YMさん	NS	TD	KKさん	TS	MA
TTさん	ZK	MY	WAさん	IT	SM
KHさん	ZK	MT	TKさん	IT	MA
SKさん	TY	OK	WHさん	TM	FI
IKさん	TY	OK	NYさん	TM	SA
SHさん	UK	HS	YHさん	FI	FM
TKさん	UK	TD	MTさん	FI	IT
IHさん	IT	HS	SYさん	KM	SM
TMさん	TY	KM	KKさん	TK	TM
WTさん	IK	MT	ORさん	ET	NK
			SSさん	HM	TM
			KYさん	KN	FM

②通所部 (在宅日中活動サービス利用)

利用者名	担当窓口	副担当	利用者名	担当窓口	副担当
HYさん	OK	KM	ATさん	NN	TS
KKさん	HS	MY	NKさん	KM	HH
SKさん	TD	TY	DHさん	MH	SM
KTさん	MT	IT	NTさん	SM	FM
MHさん	KM	NS			
SKさん	OK	ZK			
TKさん	ZK	IK			

※個人情報の取り扱いにご配慮くださいますようお願いいたします。

<利用区分>

	施設入所支援	合 計	備 考
施設入所支援 利用者	男性 24名 (24名) 女性 26名 (26名)	50名(50名)	・カッコ内は定員
在宅(通所)利用者	男性 7名 女性 4名	11名	

II. 職員の状況について

月	職員動向		異動の状況
	採用・異動	退職	
4	2		UK(採用)、TY(採用)
5			
6			
7			
8			
9	1	1	OT(採用)、MM(退職)
10			
11			
12			
1			
2			
3		1	IK3月31日付(退職)
合計	3	2	

III. 見学・実習生の受入状況

月	日	見学・実習生名
9	9/1~9/5	経専北海道保育専門学校実習生(2名)
11	11/10~11/11	岩内高校インターンシップ事業(1名)

IV. 研修の状況

1. 職場外研修の実施状況

月	日	研修名	開催地	派遣職員
4	8	令和3年度北海道サービス管理責任者/児童発達支援管理責任者研修	オンライン	OK
	8	令和3年度後志知的障がい福祉協会定期総会	小樽市	園長、FM
	16	施設における事故防止・危険予知トレーニング	オンライン	SM
	24～25	強度行動障害支援者養成研修 基礎研修	オンライン	SA
5	20～27	発達障がい講座 STANDARD	オンライン	MR、SA
	27	第2回 支援研究委員会 希望の会部会ウェブ会議	オンライン	FM
	28	社会福祉法人会計 基礎力アップ講座	オンライン	MA、YS
6	6	2021年度福祉スキルアップ研修会「障害編」	オンライン	KY
	23	第3回支援研究委員会 希望の会部会ウェブ会議	オンライン	FM
	26～27	強度行動障害支援者養成研修 基礎研修	オンライン	TY、TS
7	1	2021年度春期全道栄養士研修会	オンライン	KY
	20	令和3年度 接遇講習会第1回	オンライン	ZK
	27	第4回 支援研究委員会 希望の会部会ウェブ会議	オンライン	FM
	28	令和3年度第1回イブニングセミナー	オンライン	KY
	31～8/1	強度行動障害支援者養成研修 実践研修	オンライン	SM
8	25	令和3年度北海道知的障がい関係支援員研修	オンライン	TD
9	17	令和3年度第1回岩内町福祉・介護・医療教育関係機関原子力防災連絡会	岩内町	園長、事務局長
	22	令和3年度 後志知的障がい福祉協会職員研修会	オンライン	SM、FM
	28	第6回支援研究委員会 希望の会部会ウェブ会議	オンライン	FM
10	7	令和3年度防災業務関係者研修	オンライン	ZK
	20	口が開かない嚥下障害患者の評価・治療アプローチ	オンライン	HS
	26	令和3年度新型コロナウイルス感染症対策研修会	岩内町	SR、OE
	27	第7回支援研究委員会 希望の会部会ウェブ会議	オンライン	FM
11	17	令和3年度安全運転管理者法定講習会	岩内町	MK
	19	令和3年度 権利擁護セミナー	オンライン	HS、MA
	26	第8回支援研究委員会 希望の会部会ウェブ会議	オンライン	FM
	30	2021年度秋期全道栄養士会研修大会	オンライン	KY
12	8	令和3年度後志知的障がい福祉協会 権利擁護研修	オンライン	TK、KM
	14～15	令和3年度障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修	オンライン	MA
	20	第9回 支援研究委員会希望の会部会ウェブ会議	オンライン	FM
1	14	第2回危機管理対策委員会	札幌市	園長
	20	第2回 運営研究委員会	オンライン	園長
	28	第10回 支援研究委員会 希望の会部会ウェブ会議	オンライン	FM
2	21	令和3年度 障害者虐待防止マネジャー研修会	オンライン	SM
	25	第11回 支援研究委員会 希望の会部会ウェブ会議	オンライン	FM
3	8	第12回 支援研究委員会 希望の会部会ウェブ会議	オンライン	FM
	11	第3回 支援研究委員会 全体ウェブ会議	オンライン	FM
	14	令和3年度札幌市行動援護フォローアップ研修	オンライン	NN
	18	令和3年度新任職員研修会	オンライン	UK、TY SA、TS

2. 職場内研修の実施状況

月 日	テーマ	講師	参加人員
5/24	虐待防止伝達研修	主任	19名
7/27	感染症対策について(吐物処理実践研修)	看護師	12名
10/1	防犯対策研修	岩内警察署 警察官3名	23名
11/12	施設長が求めている福祉人材について	札幌緑花会 石亀施設長 岩あけぼの学園 小野園長	25名
11/30	リハビリ講習会(車椅子実践研修)	作業療法士	19名
1/19			20名
2/24	感染症対策講座(防護着用実践研修)	看護師、看護師	20名
2/25			16名
3/17	虐待防止伝達研修	主任	26名
			合計 180名

V. 年間行事の実施状況

月	日	行事名	月	日	行事名
4	1	開園記念日 ランチ会	10	7	日帰り旅行
	27			8	〃
				12	〃
				13	〃
				26	ランチ会
			29	ハロウィン行事	
5	4	映画観賞会 ランチ会	11	25	ランチ会
	25				
6	3	クリーンナップ&BBQ	12	17	クリスマス会
7	2	プチ縁日 縁日祭 ランチ会	1	27	新年会
	16				
	27				
8	26	ランチ会	2	2	節分行事
				14	バレンタイン行事
9	9	バーベキュー	3	3	ひな祭り
				29	ランチ会

VI. 生活支援の実施状況

1. 各種スポーツ大会等の状況

月 日	大会名	参加利用者、結 果	参加利 用者数
10/19	後志知的障がい福祉協会利用者 ボーリング大会	KY さん、FM さん	2 名

2. 社会生活活動について

- ・今年も町内の感染状況に応じて、昼食を伴わない買い物の実施や外出中止といった対応を行った。コンビニエンスストアによる訪問販売は、訪問可能な店舗が無く、実施することができなかつたため、職員代行での買い物やオンラインショッピングを利用した。今後も感染状況に応じた外出を行うこととする。
- ・利用者の方が活動に参加した際、記録管理システム(クレヨン)へ確実に記録する事で、個別の参加状況を細かく把握できる様に取り組んだ。

3. サークル・コンサート鑑賞の実施状況

サークル・コンサート名	実施場所	実施日時	利用者登録	年間実施回数
ハンドメイドサークル	施設内	月 2～3 回程度	5～6 名	25 回

4. 避難訓練の実施状況

月 日	訓練の種類	訓練の内容	利用者参加人数	年間実施回数
6/28	自主訓練	夜間通報訓練・避難訓練	50 名	5 回
8/31	自主訓練	通報訓練・避難訓練	53 名	
10/28	原子力防災訓練	原子力災害を想定した避難訓練	61 名	
1/14	自主訓練	通報訓練・避難訓練	51 名	
3/11	自主訓練	地震・土砂災害を想定した避難訓練	45 名	

5. 建物や設備の整備について

- ア.4月末、男子職員の休憩所を設置した。
- イ.平成17年度に購入したタイヤショベルの劣化に伴い、中古のタイヤショベルを更新、9月16日に納車した。
- ウ.10月29日、大友福祉振興財団から助成を受けた見守り介護ロボット(心拍、呼吸数、睡眠状況、離床センサー)を導入した。
- エ.マイクロバスについて、中央競馬函館馬主協会から12年ほど前に助成を頂きこれまで使用していたが、今年に入り不具合が相次ぎ生じ、修理をすることも考えたがエンジン部分の故障であり、業者からは完全に修理できる約束も出来ないということから、50,000キロ程度しか走行していないがやむなく廃車とした。

6. 生活棟(別棟)えみしあの運用について

生活棟(別棟)えみしあで若干利用者の方の入れ替えを行う中で高齢者に限らず、個々の特性に応じた利用者が生活できる環境とした。今後も利用者の方が落ち着いて生活できるように支援する。

7. 通院や入院への対応について

今年度は女性2名の利用者の方が医療的治療が必要で入院となった。そのうち1名については、重度の腸閉塞と診断され、緊急手術を行い小腸切除、結腸全摘出、大腸切除している。現在も小樽市立病院へ入院中で状態は少しずつ快方に向かっているが治療を継続している。更に、男性1名については認知症の進行と身体機能の低下が顕著となり、学園での生活が困難となったことから、身元引受人と協議を行い5月27日札幌あしりべつ病院へ入院、退所となった。

長期的治療となるケースや町内の医療機関に受診した際、診断によっては札幌市の医療機関へ再受診を行うケース、認知機能の低下に伴い、学園での生活が困難となりご家族と今後について協議を行い退所するケースがあった。

今後も通院や入院に至るケースについて、学園とご家族とで連携を図りながら慎重に進めていく。

8. 新型コロナウイルス感染症への対応について

国や道から感染症予防対策の徹底を図るよう通知があったことから、あけぼの学園においても体調管理の徹底、不要不急の外出や第三者による施設への立ち入りを控える等の対応を行った。職員については、道から抗原検査キットの支給を受け、まん延防止等重点措置期間、職員は毎週抗原検査を行い感染予防に努めた。更に、利用者の方の体調や外出状況に応じて抗原検査キットを活用し感染対策を図った。

コロナワクチンの接種について、(1回目)令和3年5月28日、(2回目)令和3年6月18日、(3回目)令和4年2月3日に利用者の方と職員が接種した。接種後1日～2日は副作用による発熱等の症状が見られたが、その後は回復している。

帰省や面会について、ご家族のご理解・ご協力を頂きながら、まん延防止等重点措置期間は小樽・札幌方面への帰省や面会等の制限及び中止を文書にてお願いした。更に、帰省期間は施設で定めた期間内とし、外出時は人混みを避けるよう対応して頂いた。

あけぼの学園では、感染症の発生に備え、衛生用品の確保、マニュアル等の整備、職員による防護服着用の実践研修を行うことで、緊急時に対応できる体制とした。職員についてはサージカルマスク着用を徹底した中での支援とし、職員自身も体調管理や行動履歴を含め注意喚起を行った。今後も感染症対策に努めた支援を行う。

9. リハビリ支援について

医師の指示の下、リハビリが必要であると診断を受けた利用者の方を対象に、作業療法士が中心となりリハビリを実践している。医師の指示の元、個々に合わせたプログラムを作業療法士が組み立て、支援ワーカーや看護師が連携して機能訓練を行った。今後も利用者個々の身体機能や生活状況を把握しながら専門的な支援を行う。

10. 行事の実施について

今年度は感染症対策を行いながら、ウイングベイ小樽でショッピング・映画鑑賞、小樽水族館、フルーツパークにき・余市イオンでショッピングに分かれ日帰り旅行を実施した。その他、昨年同様に利用者の方が園内で楽しめる行事として、プチ縁日や花火大会を行った。

感染予防対策をしつつ、職員が連携し行事を企画したことで、利用者の皆さんに楽しんで頂くことが出来た。

11. 学校との連携と将来的な人材確保について

毎年行っている町内の小学生と利用者の方との交流会は、感染症対策から今年度も中止となったが、岩内町立西小学校5年生の授業で「障がい」をテーマにした講義を職員が行った。

岩内高校のインターンシップ事業は1名の生徒さんを受け入れ、福祉の仕事について体験してもらっ

た。また、経専北海道保育専門学校の実習生2名の受け入れを行っており、今後も積極的に実習生を受け入れながら、地域との交流やPR活動を行い、将来的な人材確保に努めていく。

12. 広域避難訓練の実施について

原子力災害における原子力防災訓練を令和3年10月28日に実施した。今回は通信訓練と倶知安町後志総合振興局へ利用者4名、職員3名がハイエースに同乗し避難訓練を行った。次年度も引き続き訓練を行い、有事の際に備えることとする。

13. グループホーム ラフォーレの支援について

生活拠点であるグループホームと情報を共有し出来る限りのバックアップを行った。今後もグループホームと連携を図りながら、利用者の方が落ち着いて生活することができるよう支援する。

14. 在宅(通所)利用者の支援について

感染症対策で法人の対応に沿って自宅での検温、マスクの着用、発熱時は通所不可、小樽・札幌方面へ外出される場合は事前に施設へ連絡等、ご家族へ協力依頼の文書を発送した。

また、国からまん延防止等重点措置が発令された期間、通所利用者の過ごす場所を敷地内の創作棟とし、入所利用者の過ごす場所と分けることで、感染予防対策を徹底した。活動内容は、散歩や日中活動の他、月1回おやつ作りを行い、活動場所が変わっても楽しく過ごせるよう支援した。

今年度は法人内で通所利用者の方を対象とした生活介護の一本化へ向けた準備を進め、サンライズの生活介護利用者の方と地域交流センターでレクリエーション等の合同活動を行い、楽しく参加することが出来た。

15. 記録管理システムについて

記録管理システムを活用し、利用者の方の日常生活状況をきめ細かく把握し記録することを徹底し、そのデータを健康管理や個別ケース等の支援に活用した。

また、蓄積されたデータを活用しモニタリングやアセスメント(評価)を行ない、利用者の方の個別支援計画(ケアプラン)を策定した。

16. 障がい者虐待防止法について

障がい者虐待防止法を順守し、施設内における虐待防止委員会を毎月開催した。また、虐待防止に関わる施設内研修、オンライン研修への参加を行なった。更に、職員は支援項目を確認するチェックシートの実施、利用者の方については利用者自治会(はばたけ会)を通して虐待についての説明を行った。

17. 利用料収入と支援スタッフの確保について

国や利用者から支払われる一般的な支援費のほか、重度障がい者支援加算や人員配置体制加算、夜勤職員配置体制加算などを活用し、施設の収入財源を確保したうえで、国が定める一定の配置基準以上(今年度実績は利用者1.7名に対して支援スタッフ1名以上)の支援スタッフにより、利用者に対する日々の支援サービスを提供することが出来た。

夜間はあけぼの学園本体に職員3名、生活棟別棟(えみしあ)にも夜勤職員1名を配置し、夜間専門職員と日中支援職員とで協力して支援にあたった。

職員の採用について、近年、地元出身者や新規採用職員の確保が困難な状況から、人材派遣会社を通して職員2名を採用した。

VII. 食事提供業務の状況

1. 新型コロナウイルス感染症に配慮した食事提供

感染症対策として、男女で食事場所や時間を分けることで密を避ける対応とした。

2. 選択食、希望食の実施

複数の料理からその場で好きなほうを選択する献立、メニューブックを参考にして自分の食べたい料理を自由にリクエストし、それを献立に反映させた。更に、毎月実施するはばたけ会(利用者自治会)の中で利用者の方からの要望を聞き、行事食等に反映させた。また、えみしあで生活をされている利用者の方と通所利用者の方を対象におやつ作りを行い、喫食を楽しんだ。

3. 行事食、野外での食事会の実施

感染症対策を行いながら、毎月のランチ会、開園記念日、新年会などの行事食のほか、野外での食事会(炭火でのバーベキュー)を行った。

4. 特別食、エネルギー制限食の提供

腎臓疾患、糖尿病の利用者の方への特別食の提供、咀嚼、嚥下機能が困難である利用者の方への数種類に分けた刻み食の提供など、利用者の方の健康状態、嚥下機能に合わせた食事の提供を行なった。

また、個人の年齢、体型、運動量、代謝量などを考え、通常の 1.800kcal の食事のほか、若年層男女の 2.000kcal、さらに 1.600kcal、1.460kcal、1200kcal の食事提供区分を設定し、利用者の方の健康に配慮した。

VIII. 健康管理の実施状況

1. 日常生活における予防及び衛生

①生活習慣、感染症対策として、うがい、手洗い及び手指消毒、外出時はマスク着用を行った。

また、感染症対策から洗面所や出入り口にはアルコール消毒液を常設、エアージェットの使用を中止し紙ペーパーを使用した。

②入浴時は全身の怪我や皮膚の状態を観察し、異常があれば看護師へ報告し迅速に対応するよう努めた。

2. 住環境の清潔と感染性疾患の予防

①感染症予防対策として、トイレの消毒、全館の消毒を毎日実施した。

②ハセツパー水(除菌・消臭効果のある微酸性次亜塩素酸水)に対応した噴霧器を男女各棟、えみしあので Dルームに設置することで感染症の予防に努め、併せて加湿器も設置し温度及び湿度の調整に心掛けた。

③アルコール消毒液を各棟、玄関に設置し、手指消毒に努めた。

④正面玄関や職員玄関に検温器を設置し、第三者や職員が施設に立ち入る際、健康状態を把握できるようにした。

⑤可能な限り密を避け、定期的な換気を行った。

3. 日常の健康管理

①検温を毎朝、昼の1日2回測定、異常のあるときは通院を行い、軽易の症状であれば常備薬で対応した。

また、新型コロナウイルス感染症の対応で、37.0℃以上の発熱等の症状があった際は、対応マニュアル

ルに沿って迅速に対応することとし、病院へ受診、PCR検査を実施した。更に、発熱はなくても、風邪症状がある場合や感染者との接触疑いがある場合、道から支給された抗原検査キットを積極的に活用した。帰省者や通所利用者の方については、健康観察記録に検温や健康状態等を記入し、学園に提出してもらうことで、感染症対策に努めた。

また、状況については、看護記録に記載するとともに記録システム(クレヨン)に詳細な記録をとった。

- ②全利用者さんを対象に月2回体重測定を行った。また、体重の推移を細かくチェックする必要がある利用者の方については、毎週体重測定を行った。
- ③50歳以上の方と高血圧、呼吸器疾患、循環器症状のある方については、毎日血圧測定と血中酸素濃度を測定し、50歳以下の方に対しては、週1回血圧測定を実施した。数値が安定しない利用者の方に対しては通院を行い、状況や様子については健康管理委員会や各ケース会議で協議した。また、肥満防止、機能維持のために、食事量の検討、散歩、リハビリや体操などを行った。
- ④嚥下困難な利用者の方に対して「健口体操」を継続して行った。更に嚥下機能の低下が顕著となった利用者の方については、看護師、栄養士、作業療法士、支援ワーカーが観察、評価を行うことで、食事形態や支援内容の見直しを図り、医療機関への受診も行った。
- ⑤男女各棟やえみしあを巡回し、利用者の方の健康状態をチェックした。
- ⑥インフルエンザの予防接種を行った。
- ⑦新型コロナウイルスのワクチン接種を3回行った。
- ⑧新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン研修への参加や厚生労働省からの通知等で情報収集を行い、支援ワーカーへ感染症対策における防護服着用の実演を全職員へ行った。
また、札幌圏への通院においても感染状況に応じて病院側と協議し、日程を調整・延期するなどの対応を行った。

12月に岩内保健所を訪問し、学園の新型コロナウイルス感染症への対応とゾーニングについての確認と助言を頂いている。更に、感染状況によっては、職員や利用者に注意喚起を促すと共に衛生用品や抗原検査キット等の備蓄管理を行なった。

4. 健康診断の実施と各種検診の受診

- ①施設で実施する年2回の健康診断は実施しており、身元引受人の了解を頂き、血液検査による癌検診(血液マーカー検査)、便採取による大腸がん検診を実施した。岩内町で実施する各種検診(胃癌、乳癌、婦人科検診)は、新型コロナウイルス感染症による影響で中止となった。
- ②町内の歯科医院で治療が可能な利用者の方については町内で治療を行っており、町内で治療が困難な利用者の方については、9月に北海道大学歯学部へ通院し治療を行った。

5. 感染症罹患者への対応について

毎年心配されているインフルエンザであるが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底したことで、感染者がおらず蔓延することはなかった。

IX. 苦情解決について

6月は法人苦情解決委員会は開催せず、文書にて内容を報告させて頂いた。身元引受人も含めた苦情2件、要望4件、その他1件の計7件であった。12月はクリスマス会の前に法人苦情解決委員会を開催し、2件の要望について報告させて頂き、クリスマス会にもご参加頂いた。

また、朝の朝礼や毎月行なう利用者自治会の会議の中で、利用者の方から何点か要望が聞かれ、軽微な要望であった為、これについてはその都度解決した。

X. 日中活動支援の状況

日中活動区分	生活介護(入所)	生活介護(通所)	生活介護(合計)	サンライズ(通所)
人数	49名	11名	60名	1名

1. 日中活動グループの状況について(令和4年3月31日現在) ※○印は活動グループ運営責任者

活動グループ名		令和3年度日中活動編成			在籍数	運営責任者
		利用者名				
生活介護	生活介護 I (いきいき)	IJ さん	SK さん	IK さん	9名	○KM NN
		SK さん	OR さん	MT さん		
		SY さん	TK さん	WA さん		
	生活介護 II (のびのび)	NR さん	TM さん	KY さん	20名	○FM OK
		KK さん	YT さん	TK さん		
		TT さん	TT さん	WT さん		
		KK さん	KS さん	OT さん		
		SS さん	NH さん	YH さん		
		HE さん	IR さん	YT さん		
	生活介護 III (創作活動)	AT さん	NK さん		9名	○NK MY
		MS さん	SH さん	TK さん		
		KK さん	WH さん	NY さん		
	生活介護 IV (個別支援)	EH さん	FM さん	DH さん	11名	○MA ZK
		KH さん	TT さん	AS さん		
		IH さん	OS さん	IG さん		
SK さん		KT さん	HH さん			
生活介護 V (しいたけ)	KK さん	SM さん		11名	○TD NS	
	MM さん	MM さん	YM さん			
	UK さん	MH さん	HY さん			
	KY さん	IH さん	AT さん			
	NK さん	NT さん				

※個人情報取り扱いにご配慮くださいますようお願いいたします。

2. 各グループの活動状況について

生活介護 I (いきいき) グループ

○目標 (重点目標)

- ・楽しんで活動に参加出来るように個々に応じた個別課題等を設定する。
- ・身体機能維持に向けたリハビリテーションを充実させ提供し健康維持に努める。
- ・色々なレクリエーションを実施し、心身ともにリフレッシュを図る

○どの様な取り組みを行うか

- ①利用者の方が好む個別課題を提供する。
- ②検温と血圧を測定してから活動に臨む。また、活動中も利用者の方の健康状態などに留意した上

で活動を提供する。

③個別にリハビリテーションを提供し、無理のない範囲で屋内外での散歩など身体機能維持に努め、新たなリハビリテーションの提供をする。

④レクリエーションを実施し、活動への意欲向上とリフレッシュに繋げる。

○後期の取り組みに対する評価

①個別課題としてパズル、小さな穴に棒を刺すなど指先の運動、マッチング、ビーズ作成、塗り絵など個々の特性に合わせた活動を提供しており、意欲を持って取り組んでいた。

②活動前に検温・血圧・血中酸素濃度を測定し、健康状態等に留意した上で活動しており、活動中に大きく体調を崩す利用者の方は見られなかった。

③作業療法士と連携し、近距離での散歩、身体機能維持運動を提供しながら、随時内容を見直す事で顕著な健康機能の低下等は見られなかった。また、新たな身体機能維持運動として一部の利用者の方にフットエナジーの導入を実施した。

④レクリエーションとして、ポップコーンやフライドポテトなどを食べる機会を作ったり、たこ焼きパーティーを開催し楽しく参加していた。今後も計画的に実施する。

生活介護Ⅱ(のびのび)グループ

○目標(重点目標)

・一人ひとりが楽しみをもって参加出来るよう、活動内容を設定しつつ、その方にとって必要な機能維持やストレスの軽減を図り、落ち着いた生活を送る事が出来る様、支援します。

○どの様な取り組みを行うか

①心身の機能に併せた好む活動(個別課題・軽運動・機能維持に向けたリハビリテーション等)を提供する。

②活動中は利用者の方の心身の健康状態などに留意した上で活動内容を提供する。

③屋内外周辺の散歩(屋外については積雪時まで)を取り入れ、気分転換を図る。

④身体的、精神的特性により、1人での入浴が困難な方に対して安定的に提供ができる様、活動内で入浴支援を行い、気持ちのリフレッシュを図る。

⑤定期的にレクリエーションやドライブを提供し、活動への意欲向上及び気持ちのリフレッシュを図る。

○後期の取り組みに対する評価

①冬期は多目的ホール内での活動を中心とし、活動回数が少ない中で利用者の方の機能に合わせて園内での歩行運動や階段昇降などを行った。また、機能維持の目的に合わせて指先運動を主としたパズルや個別課題などを提供しながら、活動中はカラオケの音楽をかけながらリラックスした空間で活動を行なった。

②年齢や体力、その日の状態や特性に応じて、活動内容に配慮を行っており、活動中における体調不良は見られなかった。

③降雪期までの間で、アリスの里周辺などの屋外運動を継続し、ジュースなども屋外で購入するなどの取り組みは出来ていた。冬期に至っては移動のリスクを考慮し、屋内での運動が主となった事と活動日が少なかった事もあり、機能維持運動については十分に行えなかった。

④身体的、精神的特性により1人での入浴が困難な方に対し安定した提供ができるよう、職員数を配置し入浴提供を行なった。

⑤2月と3月に2グループに分けて、多目的ホールで食事を兼ねたレクリエーションを感染対策に十分配慮した上で実施した。利用者の方においては楽しんで参加されていた。

生活介護Ⅲ(創作活動)グループ

○目標(重点目標)

- ・楽しんで活動に参加出来るように個々に応じた創作活動や個別課題を設定する。
- ・散歩や歩行訓練などの身体を動かす活動を取り入れ、ストレス軽減・健康維持に努める。また、心身のリフレッシュを図るため、レクリエーションなどを提供する。

○どの様な取組みを行なうか

- ①個々の能力や興味がある事、季節に応じた創作活動の内容を設定、個別課題の提供を行う。また、完成した作品を学園内で展示する事で、活動意欲の向上に繋げる。
- ②天候の良い日には散歩を取り入れ、健康維持に努める。
- ③レクリエーションを実施することで、心身のリフレッシュを図る。

○後期の取組みに対する評価

- ①利用者の方の特性に応じて、一人一人に合わせた素材や活動を提供している。季節に応じた作品を作り、主に食堂に展示することで、利用者の方の意欲向上に繋げていた。また、クリスマス会では多目的ホール全体の飾りつけを依頼され、作品作りを行なった。感染症の関係で創作棟が使用できないことがあり、女子棟と創作棟(通所)で別れて活動することもあったが、混乱することなく活動することができた。個別課題について前期は更新することが出来ていなかったため、後期では、利用者の方の特性に応じた内容の見極め、課題の更新を行ない、スケジュールについても一部変更した。
- ②後期は気温が低い日が多く、また活動の回数も少なかったため、季節に合わせた作品作りを優先した。そのため、散歩や園内歩行を取り入れることはできなかった。
- ③12月に学園内にてレクリエーションを実施している。利用者の方の希望を聞き、多目的ホールにてお弁当とデザートを食べながら、DVD鑑賞(リメンバー・ミー)を行なっている。利用者の方も喜んで参加し、お弁当やデザートを楽しんで食べる姿が見られた。また、食事が終わってもものんびりと映画を鑑賞する様子が伺えた。

生活介護Ⅳ(個別支援)グループ

○目標(重点目標)

- ・TEACCHプログラムの理念を取り入れた支援を提供しながら見通しの持てる活動を提供する。

○どの様な取組みを行なうか

- ①個別課題を定期的に更新する。
- ②固執の変化に合わせて、生活場面と連携しながら対応方法の検討、実践を行う。
- ③随時ワークシステムを見直し、個々のスキルに合わせて調整を行う。
- ④感染症の流行に伴い、混乱を軽減出来るよう内容には配慮しながら、園内でレクリエーションを実施する。

○後期の取組みに対する評価

- ①後期についても、個々の固執の変化に合わせて課題の更新や調整を行なった。また、特に固執に変化のない場合についても、長期間取り組んでいる物については内容に変化を加え、継続的に取り組めるよう支援した。
- ②生活場面での固執に合わせて活動内での対応を検討し、事前に環境調整を行なったり固執の表出を強めないよう工夫した。また、継続して取り組んできた支援については、より定着する様子も窺えた。
- ③必要となる状況はなく、そのまま変化を加えずに様子を見る事で定着に繋がった。
- ④2月に活動棟にて、通常通り活動にも取り組み、その後におやつとしてフライドポテトを提供する等のレクリエーションを実施した。全員最後まで参加することが出来た。

生活介護V(しいたけ活動)グループ

○目標(重点目標)

- ・椎茸の品質の安定及び、個人や外部への安定した供給ができるよう、計画的な製造量の確保に努める。
- ・個々の利用者の方の特性に適した活動メニューを設定することで、椎茸の栽培を通して活動に対する意欲向上に繋げる。
- ・軽運動やレクリエーション活動を適宜に取り入れ健康増進、心身のリフレッシュに努める。

○どのような取り組みを行うか

- ①ビニールハウス内の温度や湿度を発生に適した状態を維持できるよう、継続して経験者の助言を求めながら、送風機の使用、ほだ木への撒水を計画的に行なう。
- ②椎茸の栽培に関わる活動(ほだ木の運搬、椎茸採取、)を分担する事で活動に対する意欲を高める。
- ③適宜、作業棟、休憩室、椎茸ハウス内の清掃を実施する事で作業しやすい環境を整える。又、椅子、絨毯等の休憩所の物品を購入し、過ごしやすい環境を整える。
- ④散歩等の運動やレクリエーション活動を適宜行ない、健康の増進と気分転換を図る。
- ⑤除雪を適宜行ない、健康の増進と気分転換を図る。

○後期の取り組みに対する評価

- ①後期も継続して経験者の助言をもとに、気候に応じて送風機の活用、水分を吸いやすい散水を行ない、発生に適した環境を整えることが出来ていた。又、発生した椎茸の状態を観察し、散水の量や水槽に透けて上げる工程についてその都度調整し、垂直に立てて水抜きを良くする方法と、直接棚に入れる等対応しており、安定して椎茸が発生していた。今年度植菌したほだ木については、菌糸が回っており、椎茸の発生も見られた。
- ②活動内容についてはその都度伝えることで、意欲的に取り組まれており、意識付けもされており、意欲的に取り組むことが出来た。
- ③ハウス内の清掃及び休憩所の清掃については、活動後に安定して行なうことが出来ていた。又、椅子を購入しており、過ごしやすい環境を整える事が出来た。
- ④散歩については、椎茸での作業が中心となっていた為、実施できていない。又、気温が高い日には活動後にかき氷を実施し、気分転換に繋げた。1月末にレクリエーションを実施している。感染症拡大と対策の為、園内で食事を楽しまれていた。
- ⑤冬季期間については、利用者の方の希望もあり、マルヤパックから委託を受け、身欠きニシンの箱作りを活動として提供している。個々の取り組み状況に合わせて、役割を明確にする事で、意欲的に取り組むことが出来た。